

令和6年度

那珂市原子力防災訓練 実施報告書

令和6年11月24日(日)実施

那 珂 市

1 訓練の概要

(1) 目的

那珂市地域防災計画に基づき、東海第二発電所における原子力災害を想定した実動訓練を実施し、市の緊急事態時の対応・体制を確認するとともに、関係機関との情報連絡体制の確認を行い、災害時の連携・協力に向けた経験を蓄積し、原子力防災体制の確立及び実効性の向上を図る。また、屋内退避や避難行動訓練を通じて住民の原子力に対する防災意識を高め、市における原子力防災力の向上を図ることを目的とする。

(2) 実施日時・場所

日時：令和6年11月24日（日） 8時～12時頃

場所：那珂市役所（災害対策本部室）、額田小学校

ふれあいセンターすがや、なかLuckyFM公園

(3) 訓練項目

- ・ 災害対策本部運営訓練
- ・ 住民情報伝達訓練
- ・ PAZ（※1）避難行動確認訓練・UPZ（※2）屋内退避訓練
- ・ 住民避難（一時移転）訓練

(4) 対象となる事業所

日本原子力発電株式会社 東海第二発電所

(5) 訓練参加機関

茨城県、筑西市、桜川市、那珂警察署、内閣府

原子力規制庁東海・大洗原子力規制事務所

日本原子力研究開発機構 原子力緊急時支援・研修センター

日本原子力研究開発機構 核燃料サイクル工学研究所

日本原子力発電株式会社東海事業本部

(6) 訓練参加者数

- ・ 住民 額田地区及び菅谷地区の避難訓練参加者 141名
- ・ 関係機関 74名
- ・ 那珂市 79名

(7) 訓練想定

11月24日(日)午前7時、茨城県北部沖を震源とする地震(東海村・震度6強、那珂市・震度6弱)が発生した。

東海第二発電所では、この地震の影響により、機器の故障が発生し、常用の給水系の停止により『警戒事態』となる。その後、全交流電源が喪失し、『施設敷地緊急事態』に、さらには原子炉への注水機能喪失により、『全面緊急事態』へと事態は進展する。

内閣総理大臣は「緊急事態宣言」を発出。これを受けて、那珂市原子力災害対策本部は、非常体制をとり、事態の進展に対応した応急対策を実施するとともに、市内のPAZに対する広域避難及び、UPZに対する屋内退避の措置を実施する。

その後、フィルタ付きベント装置が機能喪失し、放射性物質が大気中に放出されたことにより、市内モニタリングポストでOIL2(※3)に相当する放射線量率が計測され、24時間継続したことから、国の指示・公示に基づき、対象地域に対して一時移転を指示する。

- ※1 PAZ・・・予防的防護措置を準備する区域
原子力発電所からおおむね5km圏内 本米崎地区
- ※2 UPZ・・・緊急防護措置を準備する区域
原子力発電所からおおむね5km以上30km圏内
本米崎地区を除く市内全域
- ※3 OIL2・・・空間放射線量率のモニタリングの結果、 $20\mu\text{Sv/h}$ が計測された場合、1週間程度以内に一時移転する。原子力災害対策指針に定める防護措置判断の基準の1つ。

2 訓練評価の概要

(1) 評価目的

原子力災害に関する防災体制や関係機関との連携確認、市地域防災計画や市広域避難計画(案)の検証及び改善等を図ることを目的とする。

(2) 評価方法

ア 自己評価

災害対策本部員及び災害対策要員の自己評価については、訓練後に各訓練拠点において気づき・課題等の共有を図る“振り返り”等を実施した。また、関係機関から意見聴取を行い、気づき・課題等を抽出した。

イ アンケート

訓練効果を客観的かつ総合的に把握するため、訓練参加者及び市民全員を対象にアンケートを実施した。

ウ 外部評価

原子力防災の実効性を向上させるため、専門的見地からの評価として、日本原子力研究開発機構原子力緊急時支援・研修センター（以下「NEAT」という。）による外部評価を実施した。

これら振り返りやアンケート、外部評価等の結果を分析、整理・統合し、訓練における「成果・良好事例」と「課題・改善を要する事項」、「今後の対応」に区分し、評価結果を取りまとめた。

訓練項目別の評価の実施の有無等を表に示す。

表 訓練評価の実施の有無等

訓練項目名	自己評価	アンケート	外部評価
①災害対策本部運営訓練	○	—	○
②住民情報伝達訓練	○	○	○
③PAZ避難行動確認訓練 UPZ屋内退避訓練	○	○	—
④住民避難（一時移転）訓練	○	○	○

3 訓練項目別の評価結果

(1) 災害対策本部運営訓練

- ・地震発生を受け、災害対策本部を設置するとともに、職員の参集状況及び各班が所管する施設等の被害状況などについて情報収集を行った。
- ・発電所からの通報を受け、事態の進展に応じた市の対応すべき防護措置等の検討及び意思決定を行った。
- ・住民に対する情報発信の内容、伝達手段等の手順について確認を行った。
- ・テレビ会議システムを使用して、内閣府や茨城県、オフサイトセンターとの情報共有や、指示系統の確認を行った。
- ・広域避難を行う上での、バス等の配車について、茨城県と連携し、バス等配車オペレーションシステムの操作手順について確認を行った。
- ・広域避難先となる筑西市・桜川市に対して、事象の進展に応じた各段階における通報及び複数の通信手段について確認を行った。

■成果・良好事例

- ・災害対策本部では、地震発生後における初動での要員の参集状況確認、被害状況の報告から始まり、事態の進展による警戒事態、施設敷地緊急事態、全面緊急事態に合わせた住民への対応に必要な情報の収集、分析、対応について

災害対策本部長を中心に各班との連携により適切に対応されていた。

- ・市町村が対応すべき事項・対応を網羅していた。訓練における基本動作ができしており、有事の際においても有効な対応が期待できると思われる。
- ・本部会議では、国からの緊急時活動レベルの情報に基づいて事態への対応を行っており、適切な判断がなされていた。
- ・発電所の状況説明は、モニターにプラント情報を提示して分かり易い図を用いて説明が行われていた。
- ・テレビ会議システムやバスオペレーションシステム、衛星回線電話、IP無線機などを利用し、災害時の関係機関との連携、通信機器の操作手順等を確認することができた。

■課題・改善を要する事項

- ・ホワイトボードへの情報整理について、意思決定機関である対策本部においては、事象・事案を時系列的に整理する必要がある、記述は簡潔に分かり易く記載する必要がある。
- ・対策本部室内に大型モニターが1台しかなく、資料を表示した際に、後方の席にいたものは把握しきれないことが懸念される。
- ・無線通信による連絡を行う際に、指示や報告について受信側で復唱されていなかった。
- ・事態の状況付与を受けて、各班が対応を判断し、緊急時対応を確認していたが、より実践に近づけるよう、シナリオを一部ブラインド化する必要がある。

■今後の対応

- ・災害対策本部員や連絡員は、タブレット端末を持参していることから、リアルタイムでの情報共有などに活用できるよう工夫する必要がある。またその際には、最小限の作業で行えるツール等を検討し、事務の効率化を図る。
- ・無線による連絡は、情報の錯綜を防ぐためにも必ず復唱を行い、共通認識のもと業務を遂行することが重要であり、訓練を重ねることで習熟度の向上を図る。
- ・事故想定や状況付与から対応を協議していくなど、シナリオのブラインドを取り入れた図上訓練等を行うなど、対応力や判断力の向上を図る。



<災害対策本部>



<事業所による状況説明>



<原子力専門委員・那珂警察署>



<テレビ会議による情報共有>

(2) 住民情報伝達訓練

- ・本訓練においては、P A Zへの避難準備情報、避難指示、U P Zへの屋内退避準備、屋内退避指示、避難指示等3回の情報発信を行った。
- ・防災行政無線や防災アプリ、SNS等多様な手段を用いて、災害の概要、市民が行うべき防護措置（屋内退避、避難指示等）の情報を住民等に伝達した。

■成果・良好事例

- ・住民に向けての情報発信については、広報内容を本部会議で確認し、本部長の裁可を得て迅速に行われ、防災行政無線等での的確に情報共有が行われた。
- ・原子力災害時の広報について、地区ごとに対応が異なるなかで、住民行動や防護措置について、的確に伝達することができた。
- ・情報発信機能について様々な媒体を使用することで、各機能の有効性を検証することができた。また、それぞれの操作方法等の確認、各要員の対応力向上を図ることができた。

■課題・改善を要する事項

- ・防災行政無線による災害情報の入手は、これまで同様有効性が確認できる一方で、うまく聞き取れないなどの意見もあることから、文字による情報の入手手段もあわせて備えるよう、引き続き啓発を進める必要がある。
- ・防災アプリは防災行政無線と連動しており、放送内容を聞き逃した場合にも、内容確認ができることや、多言語に対応するなど利点があることから、普及率の推進を図るよう、引き続き情報入手手段としての有効性を周知する。
- ・災害時には、本訓練で実施した避難指示などの防護措置に関する情報のほか、原子力施設の情報や放射線の状況などについても広報の必要があるので、タイミングや、内容について事前に整理しておく必要がある。

■今後の対応

- ・災害時は、正確な情報の入手が重要であり、その方法として、市民に対して情報収集手段は複数準備しておくことが有効であることを啓発するとともに、防災アプリやYahoo!防災アプリの登録普及に努める。
- ・一時集合所などの、避難者が集まる場所においては、災害情報の提供や、避難行動について丁寧に説明し、不安解消に努める。
- ・情報発信後は、住民からの問い合わせが想定されることから、事前に想定質問や回答案をとりまとめて準備することで、混乱を最低限にとどめる。

(3) P A Z避難行動確認訓練・UPZ屋内退避訓練

- ・訓練実施にあたり事前に、「避難対応マニュアル」や「屋内退避対応マニュアル」を配布し、退避行動のポイントについて周知を行った。
- ・P A Zの住民を対象に、避難指示を合図に避難の手順や、避難経路の確認、安定ヨウ素剤の保管状況の確認などを行った。
- ・UPZの住民を対象として、屋内退避指示を合図に、屋内退避時の行動ポイントについて確認を行った。

■成果・良好事例

- ・屋内退避における外気の遮断など、災害時の行動についての手順を確認し、実践することで屋内退避についての一定程度の習熟を図ることができた。
- ・訓練実施前に避難行動を記したマニュアルを配布する啓発を、毎年継続してきたことから、原子力災害時における避難行動や、原子力防災に対する理解について促進を図ることができた。

■課題・改善を要する事項

- ・備蓄品の備えなど日常の準備や、災害時には市からの情報に基づいて行動するなど、災害に対する意識が高まっている一方で、自然災害とは異なる、原子力の特殊な部分については、十分な理解が得られていないことから、原子力防災に関する更なる周知が必要である。
- ・原子力防災に関する理解の促進に向けて、訓練時以外においても、継続した広報を行う必要がある。

■今後の対応

- ・原子力災害時の基本的防護措置である、屋内退避や段階的避難の重要性について、引き続き周知を行う。
- ・これまでは、屋内退避などの防護措置を中心とした広報を実施してきたが、広域避難先や、避難退域時検査など避難行動に関する情報等についても、周知で

きるよう、広報内容について検討していく。

(4) 住民避難（一時移転）訓練

- ・一時集合所の開設・運営の手順について確認を行った。
- ・国から安定ヨウ素剤の配布指示を受け、安定ヨウ素剤（模擬）を住民に緊急配布するとともに、効用や服用時の注意点等について説明を行った。
- ・額田地区・菅谷地区の住民を対象に、避難指示を合図に一時集合所での受付からバス避難及び自家用車避難による避難行程について確認を行った。
- ・避難経路上において、避難退域時検査を実施し、車両や衣服の放射性物質による汚染検査を行うとともに、簡易除染を実施した。
- ・仮想避難所において、原子力に関する基礎講座を実施し、放射線等についての基礎的な知識の普及を行った。
- ・避難者に対して防災講習会を実施し、原子力災害時の対応について、情報収集の方法や、避難行動のポイントについて確認を行った。

■成果・良好事例

- ・O I L 2 対象地域の住民に対する避難について、一連の対応を確認することができた。
- ・会場設営は、手際よく短時間（30分弱）で設営が行われていた。
- ・避難住民の動線に関しては、表示物を掲示することで視覚的に分かりやすくなっており全体的に円滑にできていた。
- ・避難住民の誘導に関しては、要員が職務内容を記載したビブスを着用することで住民が迷うこともなく、誘導員のサポートも的確に実施され受付から、バス乗車までの行動が円滑に行われた。
- ・安定ヨウ素剤の配布に際しては、簡潔で分かりやすい説明がされていた。また、注意事項を分かりやすく記載したチラシを配布し、補足の説明を繰り返し実施するなど必要な周知がなされていた。
- ・責任者が、各要員の持ち場の状況に目を配りつつ、一時集合所における状況や不具合等について、I P 無線を用いて対策本部等と頻繁に情報共有を図っていた。
- ・会場での車両誘導に関しては、警察と連携し、駐車場及び車道での安全管理が適切に実施されていた。

■課題・改善を要する事項

- ・避難指示が出される前に一時避難所へ集合する住民が確認された。
- ・避難住民の服装は、概ね長そで長ズボンで、コート等を着用しており、避難時の服装として適切だったが、マスクの着用率は半分以下であった。
- ・建屋内において住民を誘導するための案内掲示は充実していたが、出入り口の

要員が不在となる時が多く、迷っている住民が散見された。

- ・ 集合所に待機している住民に対して、事故や防護措置エリアの現状、避難活動等について情報提供する必要がある。
- ・ 住民からの質問に対して、一部回答できないことがあった。

■今後の対応

- ・ 有事の際を想定した場合、住民は自治体からの指示等を確認してから避難行動を開始するのが望ましい。避難行動手順について、住民の理解促進を図れるよう啓発していく。
- ・ 避難の際のマスクの着用や、長袖、長ズボン、帽子等服装に関する注意事項については、無用な被ばくを避けるためであることなど着用の意味も含め、住民の理解促進の観点から、原子力災害時の対応について周知活動や広報等により、広く理解を得ることが重要である。
- ・ 一時集合所内の動線については、必要な案内や明確な掲示がされており、わかりやすく形成されていたが、建屋出入り口などについても要員を配置したり、大きな看板を表示するなどし、混乱の軽減を図る。
- ・ 市民からの質問や問い合わせについては、窓口を一本化するか、担当部署で対応することで、現場での混乱を最低限にとどめる。また想定質問や回答案を準備しておく必要がある。



<一時集合所：受付>



<安定ヨウ素剤配布>



<避難者への状況説明>



<バスによる住民避難>



<避難退域時検査①>



<避難退域時検査②>



<避難退域時検査③>



<原子力基礎講座>

4 訓練評価のまとめ

(1) NEATによる訓練評価のまとめ

今回の訓練では、過去の訓練の経験を踏まえた対策が実施されており、前年度の訓練と比較しても適切かつ円滑に進行されていた。

全体を通して、今回の訓練想定範囲では、支障なく円滑に行えており、避難計画の検証として有効であったと思われる。また、参加住民の方々も協力的で要員の誘導に対する的確に対応されており滞りなく訓練が行われ、発災時の行動について経験を蓄積できたと思われる。

(2) 今後に向けた検討項目

○緊急事態区分に基づく各班の活動の整理

・原子力災害時には、原子力災害対策指針に基づき、EAL（※4）及びOIL（※5）が定められており、レベルに応じた防護措置を実施する。今回の訓練においても、災害対策本部運営訓練にて、各班が実施する業務や収集すべき情報などを確認した。これらを災害時に効果的に活用できるよう各種対策を整理する。

○災害時の対応力向上

- ・今回の訓練においては、警戒事態から放射性物質放出後までの、事態の進展に応じた防護措置や住民避難の対応を確認した。今後は、状況に合わせた防護措置を各班が検討する図上訓練や検討会などを取り入れ対応力向上を図る。
- ・一時集合所については、開設準備も含めた訓練を行い、レイアウトや資機材についても確認できたことから、開設や運営を含めたマニュアル等を整理する。

○関係機関との連携強化

- ・本訓練では、昨年につき、国・県などの協力により、テレビ会議システム、バスオペレーションシステムによる災害時の情報連携や、避難退域時検査訓練による防護措置などについて確認をすることができた。また、避難先自治体とも、事象の進展に応じた要請事項・対策を確認した。

災害時を想定して、関係機関との共有すべき情報や連絡体制について整理するとともに、各種システム機器の操作について習熟を図る。

○住民への啓発強化

- ・本訓練においては、避難訓練参加者に対して、原子力の基礎講座や防災講習会を実施し、原子力災害に対する理解促進を図ることができた。引き続き、継続した啓発が重要であり、防災アプリ等の普及啓発や、原子力防災の基本事項、広域避難する際の避難先や、避難退域時検査などについて、広報などを充実させ住民理解を図る。

※4 E A L (Emergency Action Level) : 緊急時活動レベル。緊急事態区分（警戒事態・施設敷地緊急事態・全面緊急事態）に該当する状況であるか否かを原子力事業者が判断するための基準。

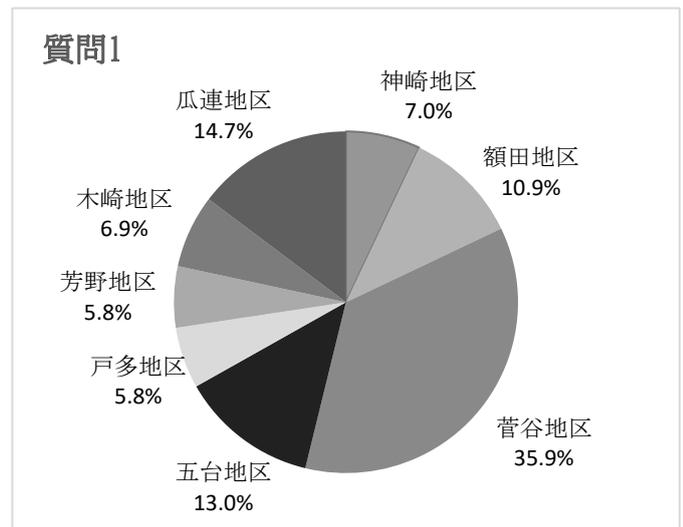
※5 O I L (Operational Intervention Level) : 運用上の介入レベル。放射性物質放出後の防護措置の実施を判断するための基準。

5 アンケート結果

市民を対象に那珂市原子力防災に関するアンケートを実施し、532人から回答を得た。

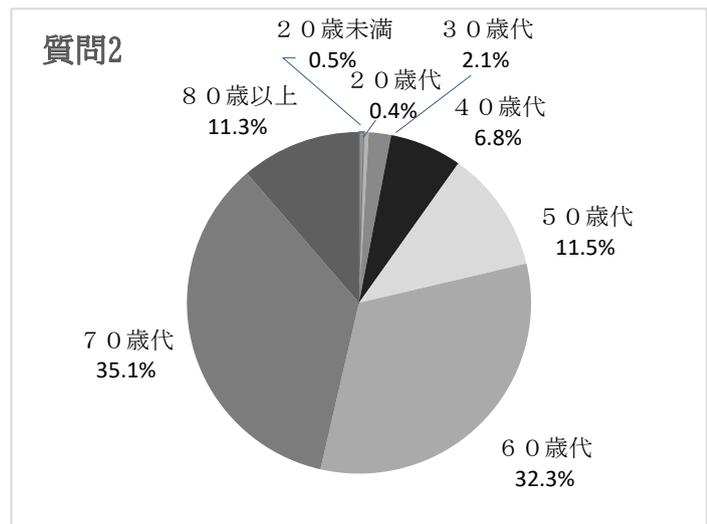
質問1 あなたのお住まいの地区を教えてください。

	回答数	構成比
神崎地区	37	7.0%
額田地区	58	10.9%
菅谷地区	191	35.9%
五台地区	69	13.0%
戸多地区	31	5.8%
芳野地区	31	5.8%
木崎地区	37	6.9%
瓜連地区	78	14.7%
合計	532	100.0%



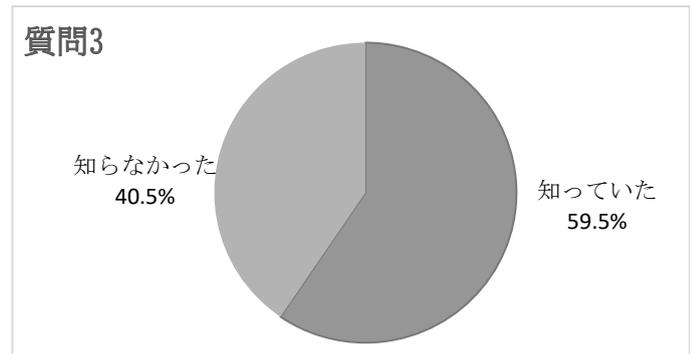
質問2 あなたの年齢（令和6年4月1日現在）を教えてください。

	回答数	構成比
20歳未満	3	0.5%
20歳代	2	0.4%
30歳代	11	2.1%
40歳代	36	6.8%
50歳代	61	11.5%
60歳代	172	32.3%
70歳代	187	35.1%
80歳以上	60	11.3%
合計	532	100.0%



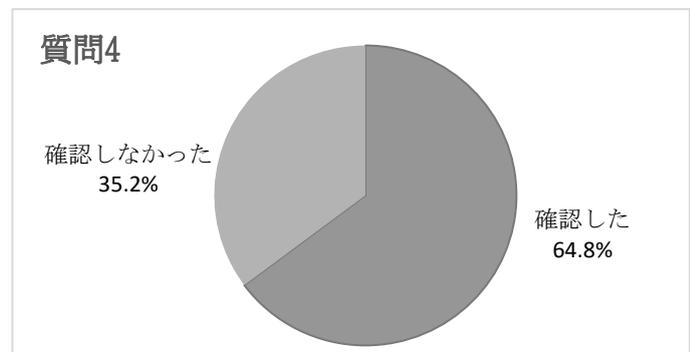
質問3 あなたのお住まいの地域が、PAZまたはUPZのどちらの区分に該当するのかわかっていましたか。

選択肢	回答数	構成比
知っていた	315	59.5%
知らなかった	214	40.5%
合計	529	100.0%



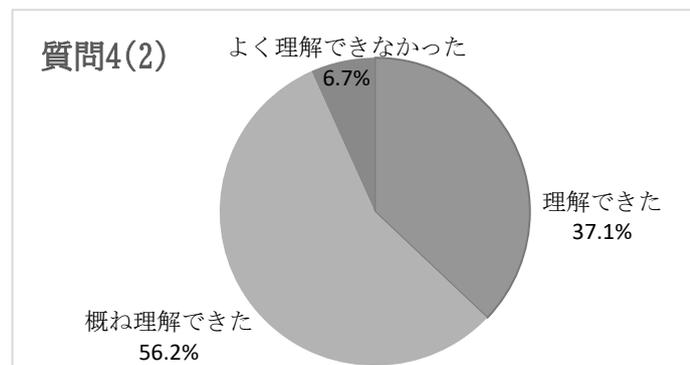
質問4 前に配布しました「PAZ用 原子力災害に備えた避難対応マニュアル」または「UPZ用 原子力災害に備えた屋内退避対応マニュアル」を確認しましたか。

選択肢	回答数	構成比
確認した	329	64.8%
確認しなかった	179	35.2%
合計	508	100.0%



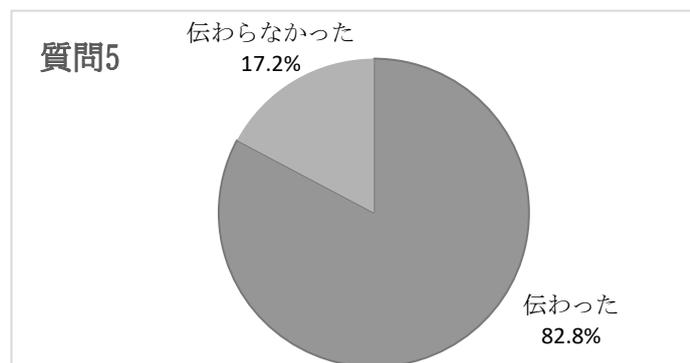
質問4 (2) [マニュアルを確認したかた] 内容は理解できましたか？

選択肢	回答数	構成比
理解できた	122	37.1%
概ね理解できた	185	56.2%
よく理解できなかった	22	6.7%
合計	329	100.0%



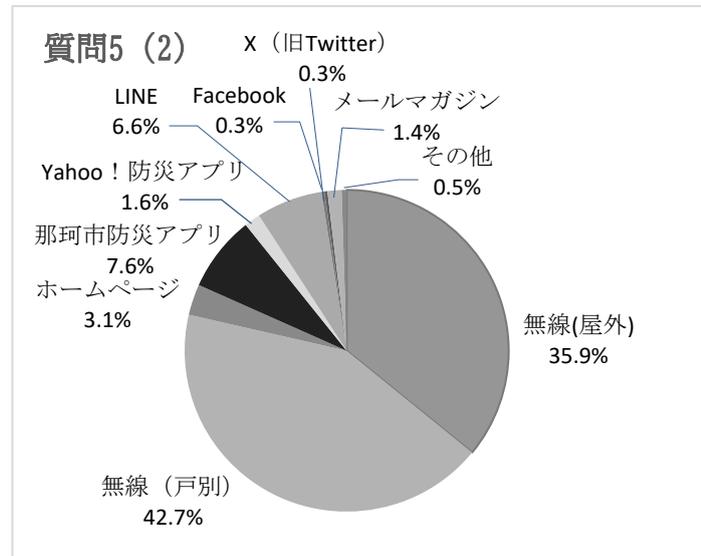
質問5 防災行政無線や各種SNSなど、市が発信した情報はあなたに伝わりましたか。

選択肢	回答数	構成比
伝わった	403	82.8%
伝わらなかった	84	17.2%
合計	487	100.0%



質問5（2）〔伝わったかた〕それは、どの広報手段でしたか。（複数回答可）

選択肢	回答数	構成比
防災行政無線 (屋外スピーカー)	228	35.9%
防災行政無線 (屋内戸別受信機)	271	42.7%
ホームページ	20	3.1%
那珂市防災アプリ	48	7.6%
Yahoo! 防災アプリ	10	1.6%
LINE	42	6.6%
Facebook	2	0.3%
X(旧 Twitter)	2	0.3%
メールマガジン	9	1.4%
その他	3	0.5%
合計	635	100.0%

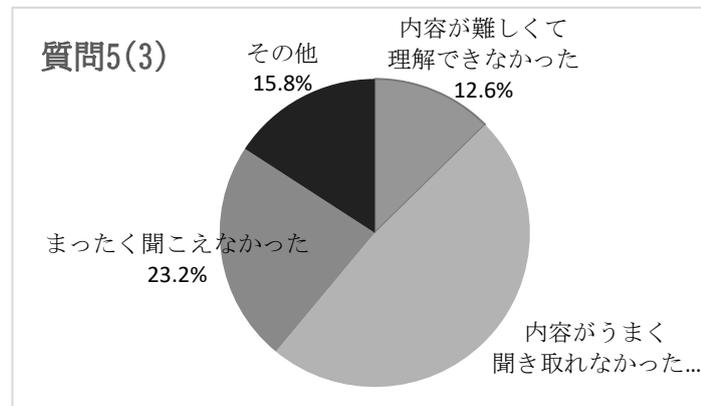


※グラフは選択率を表示

質問5（3）〔伝わらなかったかた〕その理由も教えてください。（複数回答可）

選択肢	回答数	構成比
内容が難しくて 理解できなかった	12	12.6%
内容がうまく 聞き取れなかった	46	48.4%
まったく聞こえなかった	22	23.2%
その他	15	15.8%
合計	95	100.0%

「その他」の内容
・市外にいた(外出していた)ため

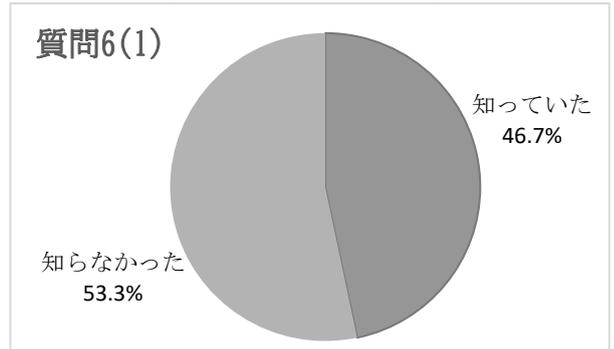


※グラフは選択率を表示

質問6 原子力災害が発生して避難する場合、次のことを知っていましたか。

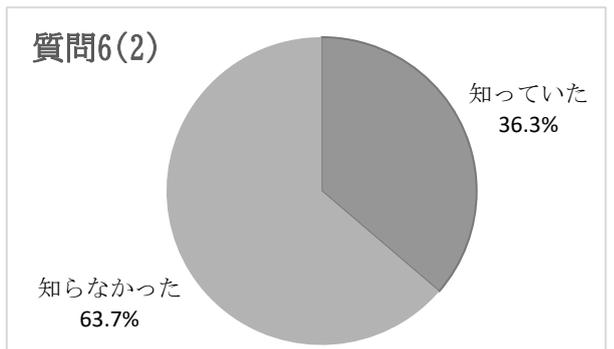
(1) バスなどで避難する場合の一時集合所

選択肢	回答数	構成比
知っていた	234	46.7%
知らなかった	267	53.3%
合計	501	100.0%



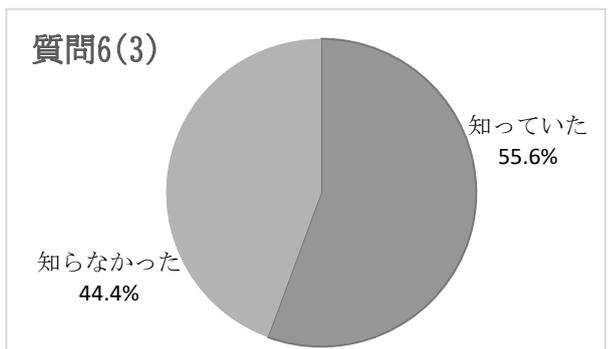
(2) 主な避難経路

選択肢	回答数	構成比
知っていた	182	36.3%
知らなかった	319	63.7%
合計	501	100.0%



(3) 那珂市の広域避難先（筑西市・桜川市）

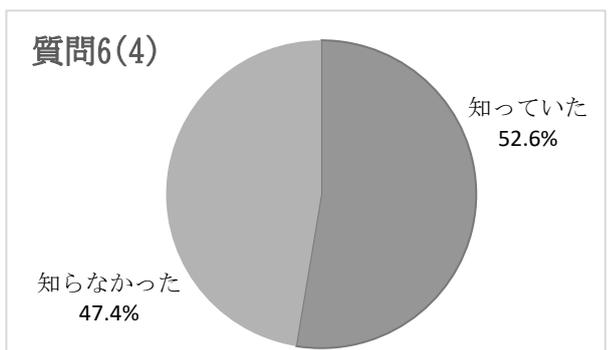
選択肢	回答数	構成比
知っていた	280	55.6%
知らなかった	224	44.4%
合計	504	100.0%



(4) 避難退域時検査

(放射性物質による汚染の有無を確認する検査のこと)

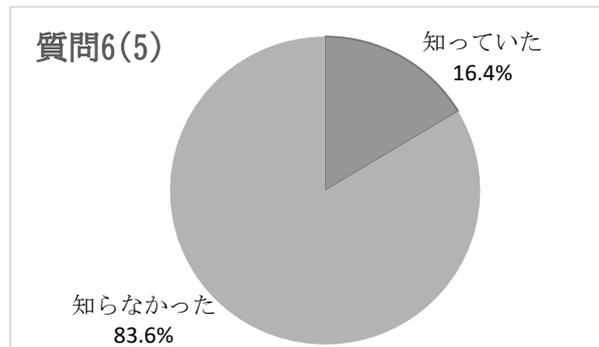
選択肢	回答数	構成比
知っていた	265	52.6%
知らなかった	239	47.4%
合計	504	100.0%



(5) 避難退域時検査の実施場所

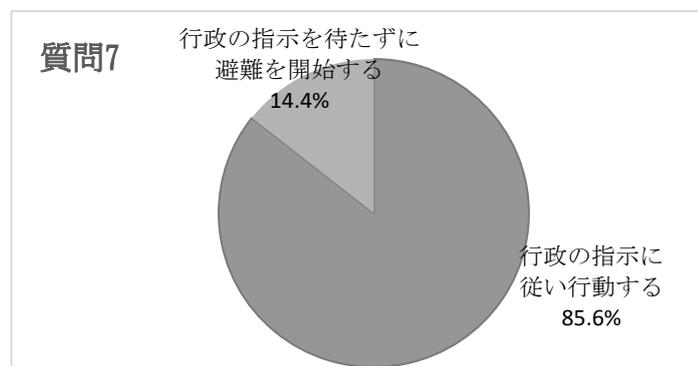
(笠間パーキングエリア又は笠間市総合運動公園)

選択肢	回答数	構成比
知っていた	82	16.4%
知らなかった	418	83.6%
合計	500	100.0%



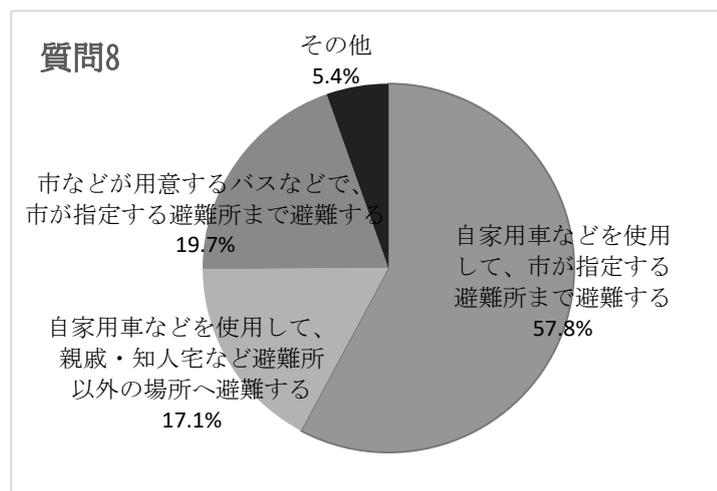
質問7 原子力災害が発生したら、あなたはどのような行動をとりますか。

選択肢	回答数	構成比
行政の指示に従い行動する	433	85.6%
行政の指示を待たずに避難を開始する	73	14.4%
合計	506	100.0%



質問8 原子力災害が発生し、あなたがお住まいの地域に避難指示があった場合、どのように避難しますか。

選択肢	回答数	構成比
自家用車などを使用して、市が指定する避難所まで避難する	297	57.8%
自家用車などを使用して、親戚・知人宅など避難所以外の場所へ避難する	88	17.1%
市などが用意するバスなどで、市が指定する避難所まで避難する	101	19.7%
その他	28	5.4%
合計	514	100.0%

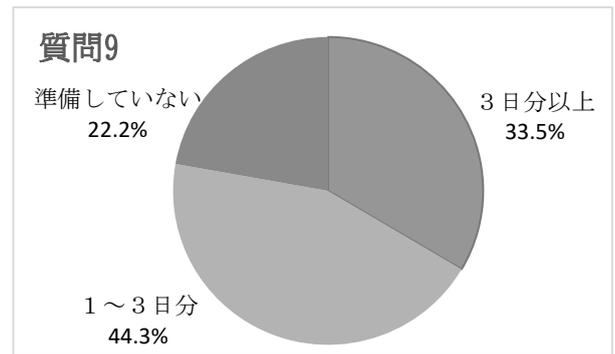


「その他」の内容

- ・避難しない
- ・どうするか家族と決める
- ・風向き、線量値、混雑状況を見て避難する先を決める
- ・できるだけ遠くに逃げる

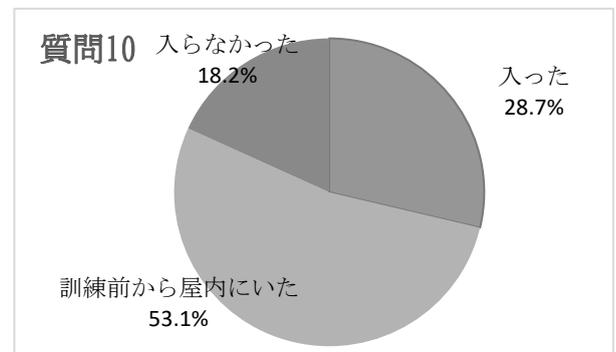
質問9 災害に備え、ご家庭にはどれくらいの食糧を備蓄していますか

選択肢	回答数	構成比
3日以上	172	33.5%
1～3日分	228	44.3%
準備していない	114	22.2%
合計	514	100.0%



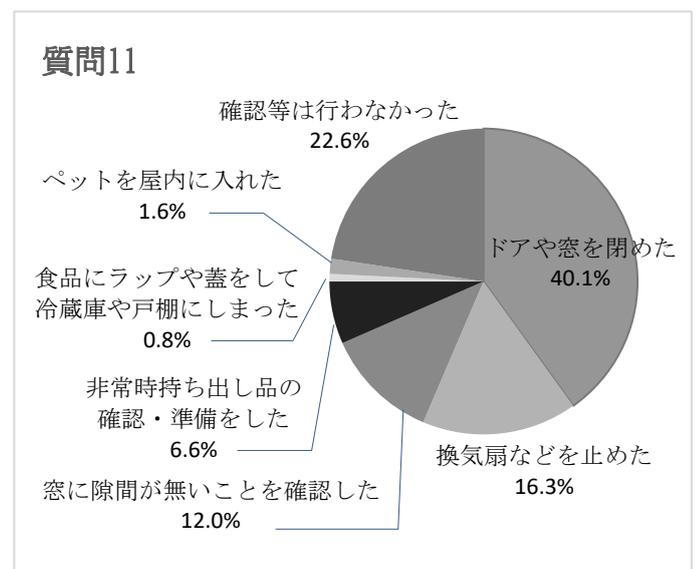
質問10〔UPZのかた〕 今回の訓練において、建物の中に入りましたか。（屋内退避）

選択肢	回答数	構成比
入った	121	28.7%
訓練前から屋内にいた	224	53.1%
入らなかった	77	18.2%
合計	422	100.0%



質問11〔UPZのかた〕〔質問10〕で「入った」「訓練前から屋内にいた」と回答したかた〕建物中に入った後、あなたが取った対応を教えてください。（複数回答可）

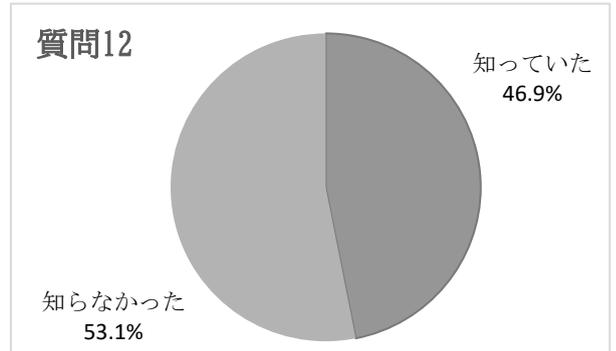
選択肢	回答数	構成比
ドアや窓を閉めた	206	40.1%
換気扇などを止めた	84	16.3%
窓に隙間が無いことを確認した	62	12.0%
非常時持ち出し品の確認・準備をした	34	6.6%
食品にラップや蓋をして冷蔵庫や戸棚にしまった	4	0.8%
ペットを屋内に入れた	8	1.6%
確認等を行わなかった	116	22.6%
合計	756	100.0%



※グラフは選択率を表示

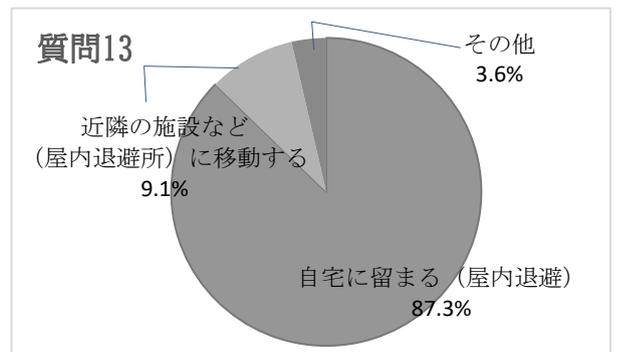
質問12〔UPZのかた〕 広域避難計画では、PAZへの避難指示に合わせ、UPZへは屋内退避指示があり、その後、放射線量の測定結果などをもとに、避難が必要な地区を特定し一時移転・避難を指示します。このような段階的な住民避難について、知っていましたか。

選択肢	回答数	構成比
知っていた	195	46.9%
知らなかった	221	53.1%
合計	416	100.0%



質問13〔UPZのかた〕 原子力災害の発生時、お住まいの地域に「屋内退避指示」があった場合、どのような行動を取りますか。

選択肢	回答数	構成比
自宅に留まる(屋内退避)	364	87.3%
近隣の施設など(屋内退避所)に移動する	38	9.1%
その他	15	3.6%
合計	417	100.0%



「その他」の内容

- ・職場を考慮して、最適なところに退避する
- ・遠方の親戚や知り合いのところへ避難する
- ・できるだけ遠くに避難する

質問14 本日の訓練で気づいた点や原子力防災に関するご感想、ご意見がありましたら記入してください。

【情報伝達について】

- ・防災無線が聞き取れなかった
- ・防災アプリを入れていても開かないと情報が伝わらない
- ・LINEが活用しやすかった
- ・防災無線では、どのような事故が起こったのかわからなかった
- ・正確な情報を入手することに不安がある

【屋内退避について】

- ・窓を閉め切っておくと不安（暑さ、情報聞こえない）
- ・近くの屋内退避所がどこなのかわからない
- ・備蓄しようと思った

【避難・避難先について】

- ・高齢なので一時集合所までの移動が難しい
- ・広域避難先をはじめて知った
- ・広域避難先への訓練も参加したい
- ・避難先含めて知識が乏しい
- ・高齢者、障がい者、ペットがいるかたなどは長距離の避難が難しいと思う
- ・ルートや道路の混雑、橋の通行止めなどインフラが不安
- ・原子力避難なのにマスクをつけていない参加者が多かった

【避難退域時検査について】

- ・退域時検査の意図がよくわからなかった（説明してほしい）
- ・屋外で検査することが不安

【安定ヨウ素剤について】

- ・UPZにも配ってほしい
- ・自家用車避難したときにどこで安定ヨウ素剤をもらえるのか、どう対応すれば良いのかわからなかった

【広報について】

- ・マニュアルに地区名（神崎ではなく杉）を記載してほしい
- ・日頃からの周知をもっと行った方が良い

【訓練全般について】

- ・PAZ／UPZの略語がピンとこない
- ・こういった訓練はとても大事だと思う
- ・緊張感が欠けていた、無関心の人が多い
- ・自治会に入っていないかたの訓練参加が難しいのではないかと
- ・全地区の訓練を行った方が良い
- ・近隣自治体と合同で訓練を行った方が良い
- ・実際に原子力災害が発生した場合、訓練と同じ行動をとれるか不安
- ・避難に時間がかかる人も考慮した対応を検討してほしい